

## 第46回 宇宙産業・科学技術基盤部会 議事要旨

1. 日 時 平成31年4月24日（火） 15:00～17:00

2. 場 所 内閣府 宇宙開発戦略推進事務局 大会議室

3. 出席者

(1) 委員

中須賀部会長、松井部会長代理、青木委員、石田委員、上杉委員、  
下村委員、中村委員、松尾委員、山崎委員、渡邊委員

(2) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

高田局長、行松審議官、山口参事官、星野参事官、高倉参事官、  
森参事官、滝澤参事官、小暮参事官

(3) 関係省庁等

経済産業省製造産業局宇宙産業室長	浅井 洋介
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課企画官	原田 大地
北海道大樹町長	酒森 正人
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構	
宇宙輸送技術部門事業推進部計画マネージャ	清水 文男
宇宙輸送技術部門H3プロジェクトチーム	
プロジェクトマネージャ	岡田 匡史
宇宙輸送技術部門イプシロンプロジェクトチーム	
プロジェクトマネージャ	井元 隆行
研究開発部門第一研究ユニットユニット長	山中 浩二
国立研究開発法人情報通信研究機構ワイヤレスネットワーク	
総合研究センター宇宙通信研究室室長	豊嶋 守生
スペースワン株式会社取締役/企画・営業・渉外本部長	阿部 耕三
日本電気株式会社宇宙システム事業部	
第三宇宙システムグループ部長	浜本 正秀
三菱電機株式会社鎌倉製作所主管技師長	関根 功治

4. 議事要旨 (○：質問・意見等 ●：回答)

(1) スペースデブリに関する取組について

資料1に基づく説明のあと、次のような議論が行われた。

○宇宙空間の長期的で持続的な利用を考えると、意図的な破壊の抑制に向けて、対応を考えるべき。

●現在は、国連デブリ低減ガイドラインなどの技術基準により、意図的な破壊に対応している。国際社会や関係府省とも連携し、対応していくことになる。

## (2) 先端衛星システム等の動向と今後について

資料2-1から2-5に基づく説明のあと、次のような議論が行われた。

- 将来の衛星測位システムでも重要な原子時計については、部品戦略という観点からも、検討する必要があるのではないか。
- 海外企業しか生産していない入手困難な衛星技術もある中で、オールジャパンでの技術ロードマップの策定や開発も、検討するべきではないか。
- 将来の通信衛星については、①技術として何を開発するのか、②周波数をいかに確保するのか、③アプリケーションとして他の技術との競争をいかに考えるのかという観点から、検討を進めるべきではないか。
- 欧州のように継続性のある研究コミュニティを醸成していきたい。

## (3) 基幹ロケットの取組状況と今後について

資料3-1、3-2に基づく説明のあと、次のような議論が行われた。

- 衛星などのペイロードが多様化する中で、ロケット側においても、正確な軌道投入を可能にする技術、多数の衛星を載せられる搭載構造技術、さらには多数の衛星を軌道投入する技術等について、開発を進めることが必要。
- 海外の競合ロケットと比べた際の、イプシロンの強みは何か。
- 600kg 級衛星のシングルランチを想定しており、衛星側の都合に合わせた打上げが可能であることが強み。コスト的にも競合していきたい。

## (4) 宇宙産業分野の知財に関する動向と今後について>

資料4に基づく説明のあと、次のような議論が行われた。

- 宇宙業界において異業種との融合が進む中、今後、異業種との知財の争いが出てくる可能性がある。知財戦略でも宇宙業界以外を考慮した上で、検討することが重要。
- 基本的な内容であっても特許になる可能性があるため、我が国の企業にとってキーとなる特許を競合の海外企業に取らせない努力や、そのような特許を使用しないための事前調査が必要。さらには、ベンチャー企業に対し、知財に関する普及啓蒙が必要。

## (5) 射場に関する取組状況について

資料5-1、5-2に基づく説明のあと、次のような議論が行われた。

- 大樹町において、JAXA 気球実験とロケット打上げを両方進められるのか。
- 調整を行い、並行して進める予定。
- 串本町において、飛行機航路との兼ね合いはどうか。
- 打上げまでの2年の中で、関係機関と調整する予定。

## (6) 工程表の重点事項について

資料6に基づく説明が行われた。

以上